

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	舞鶴こども療育センター 保育所等訪問支援		
○保護者評価実施期間	2024年 12月 1日		～ 2025年 1月 31日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	23人	(回答者数) 16人
○従業者評価実施期間	2025年 1月 1日		～ 2025年 1月 31日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	2人	(回答者数) 2人
○訪問先施設評価実施期間	2024年 12月 1日		～ 2025年 1月 31日
○訪問先施設評価有効回答数	(対象数)	23施設	(回答数) 22施設
○事業者向け自己評価表作成日	2025年 2月 28日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)と思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	医療との連携	診察での情報の共有や、リハビリにおける情報の共有をして、訪問先との情報交換を適時行うことで、場面による違いなども踏まえた上での支援を行っています。	訪問先での事象を診察やリハビリに伝えることで、その時に実際の現場で困っていることについての介入をおこなえるようにしていきます。
2	就学先に対しての情報提供。	就学する際に訪問だけではなく、医療やリハビリの情報も含めた独自の移行支援サマリーを作成し、それをもって入学前に就学先訪問することで、入学前から児童の様子や関わり方について、担当の先生にイメージを持ってもらえるように取り組んでいます。	就学先の先生が訪問支援先に来るときに合わせて訪問することや、それまでの間に園の先生と必要情報について話しておくことでより円滑に、情報交換が出来るように取り組んでいます。
3			

	事業所の弱み(※)と思われること ※事業所の課題や改善が必要と思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	医療機関としての業務もあるため、常にいつの時間でも訪問できるわけではないので、訪問先が期待される曜日や時間にいけないことがある。	医療としての部分と福祉としての部分の混在。勤務時間内に余剰に動ける時間の少なさ。	役割分担と、勤務の柔軟性
2	人数、および移動手段の少なさ。	訪問支援員の少なさ、交通手段の乏しさ	人数の増員や交通手段の確保
3			